

キャンプ場の利用状況と 施設の評価について

—— 白州町菅尾白の森キャンプ場の場合 ——

○朝倉徳雄 永嶋正俊 澤村 博 川井 昂 吉本俊明 菊地君男 岩田 惇

(日 本 大 学)

キャンプ場施設 利用状況 評価

1. はじめに

近年、余暇時間の増大に伴い余暇に営まれる野外活動の成長はめざましいものがあり、特に、広大な自然の中で行われるキャンプは自然志向の高まりもあって、ますますその需要を拡大していくものと思われる。

わが国のキャンプは、学校教育、ボーイスカウト、YMCAその他の団体によって、組織的・計画的に運営される組織キャンプとして、あるいは仲間や家族などで楽しむレクリエーションのためのキャンプとして発展してきた。それに伴い数多くのキャンプ場が設置され、その数は、2,500ヶ所近くにも及ぶといわれている。

しかし、これらのキャンプ場の施設の内容については著しい格差のあることが指摘されている。充実したキャンプは、キャンプ場の施設・設備の内容によって大きく左右されることから、本研究は、昭和56年林業構造改善事業の一環として、自然林の中に設置された町菅尾白の森キャンプ場の利用状況および評価について調査し、現状を把握することによってキャンプ場のあり方について具体的提案をするための基礎資料を得ようとするものである。

2. キャンプ場の概況

名称	町菅尾白の森キャンプ場
所在地	山梨県北巨摩郡白州町白須
経営主体	白州町役場
営業開始	昭和56年
交通	中央本線葦崎駅から山梨交通バス30分 で白州町、徒歩15分

施設

面積 3,200㎡

施設内容

- ・管理棟／木造平屋／40㎡
- ・バンガロー／丸太造り (10人用) 5棟
- " / " (6人用) 10棟
- " / " (5人用) 10棟
- ・テント (5人用) 10張
- ・テントサイト／林間平地／80㎡
- ・便所／木造モルタル／25㎡× 1棟 (男子用大小各3, 女子用4)
- 簡易便所／リース／ 2棟

- ・シャワー室／木造平屋／55㎡
(シャワー 4基)
- ・共同炊事場／ブロック平屋／40㎡
× 3棟 (水道の蛇口 8ヶ所が 2棟、10ヶ所が 1棟、かまど12ヶ所が 2棟、10ヶ所が 1棟)
- ・アズマヤ／木造平屋／9㎡× 5棟
- ・キャンプファイヤー場 80㎡× 2
- ・駐車場 1,486㎡ (120台)

配置 図-1
 収容人員 210人
 開設期間 5月～10月
 管理体制

- ・管理方法 民間人に委託
- ・管理者数 3名 (うち 2名臨時)
- ・給水 簡易水道
- ・排水 分流式 (し尿はくみとり、他は放流)
- ・ゴミ処理 焼却、埋没、搬出

周辺の状況

- ・遊歩道：キャンプ場から駒ヶ岳神社まで45分、日向山まで 2時間30分

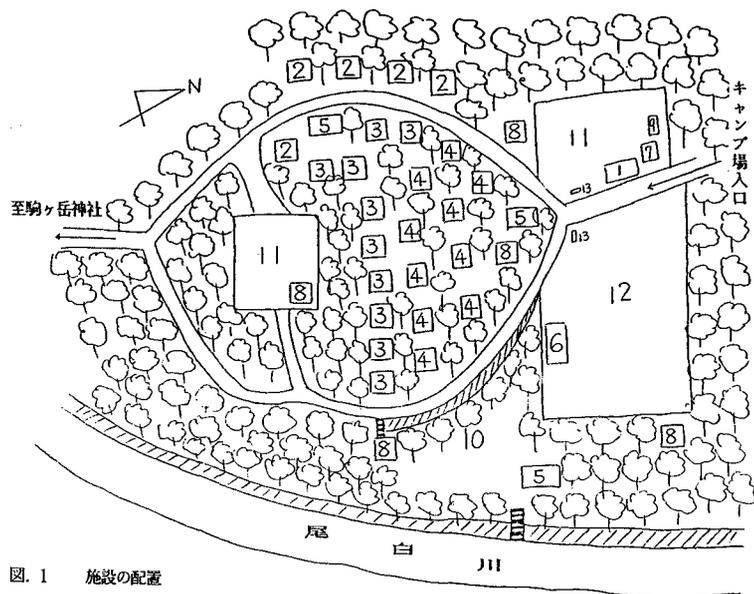


図 1 施設の配置

- | | | | |
|---------|-----------------|----------------|----------------|
| 1. 管理棟 | 2. バンガロー (10人用) | 3. バンガロー (6人用) | 4. バンガロー (5人用) |
| 5. 炊事場 | 6. 便所 | 7. シャワー室 | 8. アズマヤ |
| 9. 物置 | 10. テントサイト | 11. キャンプファイヤー場 | 12. 駐車場 |
| 13. 案内板 | | | |

分のハイキングコースが整備されている。

- ・河川：日本名水百選に選ばれた尾白川がキャンプ場の横を流れており、ヤマメやサワガニが生息し、魚つり、水遊びができる。
- ・登山：甲斐駒ヶ岳（標高 2,965m）、日向山（標高 1,659m）がある。
- ・駒テニスセンター（アンツーカー）：キャンプ場から徒歩15分。
- ・樹木：クヌギ、アカマツ、カラマツ、ヒノキ、クリ、シラカバ、タラ、ハギ、ヤマサンショウ、ウリカエデなど。
- ・野草・草花：ウツギ、バライチゴ、オダマキ、ガクアジサイ、アヤメ、ホタルブクロ、スエカズラ、ワラビ、キノコなど。
- ・小鳥・小動物・昆虫：ウグイス、ホトトギス、キジ、カッコウ、カケス、ムクドリ、コジュケイ、キツネ、タヌキ、ウサギ、テン、ムジナ、クワガタ、カブトムシ、カミキリムシ、チョウ、セミなど。

3. 方法

(1)調査期間

昭和59年 7月上旬～ 9月上旬

(2)調査対象

中学生以上のキャンプ場利用者無作為に 263名選んだ。
(表-1)

(3)調査方法

キャンプ場の利用者にアンケート用紙を配布して回答を求めた。アンケート用紙の配布および回収は管理人に委託し、来場時に配布して退場時に回収した。

(4)調査項目

- A. 利用者について：職業、キャンプ経験の有無、属するグループ、グループでの立場、住居、利用した交通機関、キャンプ場選択の理由、宿泊期間、宿泊の方法、実施したレクリエーションの種類など。
- B. キャンプ場に対する評価について：テント内のスペース、テント内外の清潔さ、テントとテントの間隔、バンガロー内のスペース、バンガロー内外の清潔さ、バンガローとバンガローの間隔、炊事場のスペース、炊事場の清潔さ、炊事場の使いやすさ、水道の蛇口の数、水道の水質、かまどの使いやすさ、かまどの数、ゴミ箱の数、ゴミ箱内のゴミの処理、トイレの清潔さ、トイレの数、トイレのスペース、キャンプファイヤー場のスペース、キャンプファイヤー場の使いやすさ、キャンプファイヤー場の間隔、駐車場のスペース、駐車場の利用しやすさ、管理棟のスペース、管理棟からの情報提供、管理棟の機能、管理人の親切さ、管理人のキャンプに関する知識、バンガロー・テントサイトから炊事場・トイレ・キャン

プファイヤー場・駐車場・管理棟までの距離、自動販売機の数、樹木・草花・野草などの数、野外レクリエーション活動に利用できる樹木の数、小鳥・小動物の数、河川の水質、河川の水質、河川の水遊びに利用できるスペース、レクリエーション工芸に利用できる河川の流木・石・岩石などの数、魚つりの場所、登山・ハイキングコースの道しるべ、登山・ハイキングコースの歩きやすさ、オリエンテーリングの場所など。

(Bの設問に対しては、「十分である」「どちらともいえない」「不十分である」のスケールを設けて回答を得た)

4. 結果と考察

表1は、アンケート対象者の内訳を示したものである。社会人が46.8%、大学生が35.7%、中高校生が17.5%であった。なお、これらの対象者の83.7%は当キャンプ場を初めて利用する者であった。

表. 1 アンケート対象者の内訳

中・高校生	大学生	社会人
N	%	N %
46	17.5	94 35.7
		123 46.8

表2は、利用者のキャンプ経験の有無についてみたものであるが、利用者全体の約80%が経験者であり、特に社会人はその90%が経験者であった。

経験年数は、5年未満が全体の63.6%であったが、社会人の場合は約50%が5年以上の経験者であり、そのうちの

表. 2 キャンプ経験の有無

	中・高 N=46	大学 N=94	社会人 N=123	全体 N=263
	N	%	N %	N %
経験 有	39	84.8	59 62.8	111 90.2
経験 無	7	15.2	35 37.2	12 9.8
				54 20.5

表. 3 属するグループ

	中・高 N=46	大学 N=94	社会人 N=123	全体 N=263
	N	%	N %	N %
授業	0	0	56 59.6	0 0
個人	2	4.3	0 0	0 0
家族	10	21.7	0 0	30 24.4
友達	5	10.9	0 0	16 13.0
ボーイスカウト	0	0	1 1.1	17 13.8
ガールスカウト	0	0	1 1.1	3 2.4
子供会	0	0	0 0	13 10.6
学校のサークル	8	17.4	7 7.4	2 1.6
教会の集い	11	23.9	23 24.5	20 16.3
その他	10	21.7	6 6.4	22 17.9
				38 14.4

約半数が10年以上の経験者であった。

利用者がどんなグループに属しているかをみると(表3)、学校や団体・組織に属しているグループが多いのがわかる。これは、わが国のキャンプが、ボーイスカウトやYMCA、学校、地域・職場団体による教育キャンプなどを主流として発展してきたことを考えると当然の結果とも思われる。しかし、最近の傾向として、キャンプを「生活の一部」として楽しむという、いわゆる「ファミリーキャンプ」とよばれるキャンピングの分野が拡大されており、本調査でも「家族」と答えた者が比較的多かったことからみて今後さらにこの分野のキャンプが発展していくものと思われる。

表. 4 住 居

	中・高 N=46		大学 N=94		社会人 N=123		全体 N=263	
	N	%	N	%	N	%	N	%
山 梨	5	10.9	0	0	37	30.1	42	16.0
東 京	17	37.0	45	47.9	36	29.3	98	37.3
神 奈 川	16	34.8	28	29.8	32	26.0	76	28.9
千 葉	4	8.7	8	8.5	6	4.9	18	6.8
埼 玉	3	6.5	6	6.4	3	2.4	12	4.6
茨 城	0	0	0	0	4	3.3	4	1.5
そ の 他	1	2.2	7	7.4	5	4.1	13	4.9

次に利用者の住居についてみたのが表4である。県内の利用者は16%と少なく、そのほとんどが県外の利用者であった。特に、東京都および神奈川県の利用者が多かった。また、利用した交通機関(表5)をみると、貸し切りバスやマイカーでの来場が多いことがわかる。これは、当キャンプ場が中央自動車道小淵沢1・Cに近いことから、首都圏から車を利用して来場しやすい位置にあることを示しているものと思われる。

表. 5 利用した交通機関

	中・高 N=46		大学 N=94		社会人 N=123		全体 N=263	
	N	%	N	%	N	%	N	%
中央線	12	26.1	3	3.2	10	8.1	25	9.5
路線バス	3	6.5	3	3.2	0	0	6	2.3
貸切バス	19	41.3	93	98.9	52	42.3	164	62.4
車(マイカー)	16	34.8	0	0	61	49.6	77	29.3
バイク	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車	0	0	0	0	0	0	0	0
徒歩	1	2.2	4	4.3	1	0.8	6	2.3
その他	7	15.2	0	0	7	5.7	14	5.3

表. 6 キャンプ場選択の理由

	中・高 N=46		大学 N=94		社会人 N=123		全体 N=263	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1.住居から近い	0	0	0	0	9	7.3	9	3.4
2.以前に利用し知っていた	11	23.9	0	0	16	13.0	27	10.3
3.紹介された	8	17.4	2	2.1	37	30.1	47	17.9
4.他のキャンプ場より費用が安い	1	2.2	0	0	4	3.3	5	1.9
5.他のキャンプ場より自然がある	0	0	1	1.1	14	11.4	15	5.7
6.組織・グループが決めた	27	58.7	89	94.7	54	43.9	170	64.6
7.その他	0	0	2	2.1	5	4.1	7	2.7

キャンプ場選択の理由(表6)は、「組織・グループが決めた」という回答が多かった(64.6%)。これは、学校や組織・団体による利用が多く引率される者の絶対数が多いことを考えれば当然のことであるが、リーダーの立場ではどのような選択理由であったかを分析してみると、「組織・グループが決めた」というのは47.3%であり、「紹介された」というのが38.2%あった。対象者別にみると、中高校生および大学生のリーダーではほとんどが「組織・グループが決めた」と答えているのに対して、社会人のリーダーでは半数以上が「紹介された」と答えている。当キャンプ場が開設間もないこともあり、知名度が低いことを考えるならば、組織・団体に対する積極的なPRによってかなりの来場者を誘致できるのではないと思われる。しかし、「他のキャンプ場より費用が安い」、「他のキャンプ場より自然がある」の項目で回答が少なかったことは、他のキャンプ場との比較において検討されなければならない問題であろう。

表. 7 宿泊期間

	中・高 N=46		大学 N=94		社会人 N=123		全体 N=263	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1泊	6	13.0	1	1.1	36	29.3	43	16.3
2泊	28	60.9	25	26.6	67	54.5	120	45.6
3泊	0	0	61	64.9	9	7.3	70	26.6
4泊	1	2.2	2	2.1	8	6.5	11	4.2
5泊	0	0	0	0	0	0	0	0
6泊	10	21.7	0	0	0	0	10	3.8
7泊	1	2.2	0	0	0	0	1	0.4
無記入	0	0	5	5.3	3	2.4	8	3.0

表7は、宿泊期間についてみたものである。利用者全体の平均宿泊数は2.4泊であるが、中高校生、大学生、社会人によってその内容を異にしている。中高校生は2泊が最も多く、次いで6泊という長期宿泊になっている。この長

期宿泊者の属するグループは9名が「塾」と答えておりすべて中学生であった。大学生は3泊が最も多く、そのほとんどが「授業」として参加した学生であった。社会人は、1泊および2泊を合わせると83.8%を占めており概ね2泊以内の宿泊期間であった。これは、昭和58年の企業における夏季休暇用特別休日の平均日数が2.5日（レジャー白書1986年版）という結果とも一致するもので、社会人の場合は短期キャンプにならざるを得ない状況にあるといえる。

表. 8 宿泊方法

	中・高 N=46		大学 N=94		社会人 N=123		全体 N=263	
	N	%	N	%	N	%	N	%
バンガロー	17	37.0	26	27.7	79	64.2	122	46.4
テント	27	58.7	6	6.4	41	33.3	74	28.1
バンガローとテント	2	4.3	61	64.9	3	2.4	66	25.1
テントとキャンピングカー	0	0	1	1.1	0	0	1	0.4

宿泊の方法については表8のとおり中高生ではテントの利用者が多く、社会人はバンガローの利用者が多かった。大学生が、バンガローとテントを併用したと回答した者が

表. 9 実施したレクリエーション活動

	中・高 N=46		大学 N=94		社会人 N=123		全体 N=263	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 野外料理	42	91.3	86	91.5	104	84.6	232	88.2
2. キャンプファイヤー	32	69.6	94	100.0	77	62.6	203	77.2
3. ハイキング	25	54.3	35	37.2	55	44.7	115	43.7
4. 登山	12	26.1	59	62.8	14	11.4	85	32.3
5. 写真	11	23.9	25	26.6	25	20.3	61	23.2
6. 絵画	0	0	4	4.3	4	3.3	8	3.0
7. 自然研究	10	21.7	30	31.9	36	29.3	76	28.9
8. 野外教育の聴講	4	8.7	47	50.0	18	14.6	69	26.2
9. ゲーム	23	50.0	73	77.7	53	43.1	149	56.7
10. 魚つり	1	2.2	1	1.1	13	10.6	15	5.7
11. 工作	2	4.3	25	26.6	14	11.4	41	15.6
12. 演劇	9	19.6	15	16.0	15	12.2	39	14.8
13. 踊・ダンス	16	34.8	45	47.9	31	25.2	92	35.0
14. 歌	15	32.6	76	80.9	42	34.1	133	50.6
15. チームスポーツ	4	8.7	17	18.1	17	13.8	38	14.4
16. 水遊び	40	87.0	51	54.3	68	55.3	159	60.5
17. ピクニック	3	6.5	7	7.4	6	4.9	16	6.1
18. 読書	12	26.1	13	13.8	8	6.5	33	12.5
19. ラジオを聞く	5	10.9	11	11.7	12	9.8	28	10.6
20. テレビを見る	0	0	0	0	0	0	0	0
21. その他	9	19.6	10	10.6	15	12.2	34	12.9

半数を超えたのは、授業で参加した学生のキャンププログラムの内容によるものと思われる。

表9は、今回のキャンプで実施したレクリエーション活動の種類である。回答の多かった順に、「野外料理」「キャンプファイヤー」「水遊び」「ゲーム」「歌」であった。キャンプで実施するレクリエーション活動については、前野が全国のキャンプ場を対象に調査しており、それによると、自然観察やハイキング、山菜採り、登山およびオリエンテーリングといった活動が上位にランクされている。今回の調査ではそれとは異なる結果を得たが、これは、当キャンプ場の施設の配置（図-1）に関係しているのではないかと推察される。

すなわち、バンガローとテントサイトの近くに炊事場が3ヶ所設置されており野外料理を楽しむスペースがあること、キャンプファイヤー広場が2ヶ所あること、そして、尾白川がキャンプ場のすぐ近くを流れていることなどが、レクリエーション活動をある程度条件づけているものと思われる。また、対象者別では、中高生は「ハイキング」、大学生では「登山」と答えた者が半数を超えており、若者にとってはこれらの活動が実施度の高い活動であることがうかがえる。

キャンプ場の混雑の度合いについては、「ちょうどよい」と答えた者が86.7%あった。これは、このキャンプ場へまた来たいかという問に対して「来たくない」と答えた者が皆無であったことと併せて、当キャンプ場に対する評価が概ね好意的であることを表しているものと思われる。

表10は、施設に対する評価について表したものである。キャンパーがキャンプ場を決定する場合、施設の内容、豊富な自然、レクリエーション活動のできる場所などがその条件になっているものと思われるので、そのような観点から検討してみよう。

まず、各施設間の距離や間隔については「十分である」という回答がいずれも50%を超えておりまずまずの評価を得ている（バンガローおよびテントの間隔は5~10m、そこから炊事場までは10~30m、キャンプファイヤー場までは20~70m、さらに、便所・管理棟・駐車場などの施設までは30~70mの距離である）。

施設のスペースについては、キャンプファイヤー場に対する評価が高かったが（71.5%）、これは、2ヶ所ある広場が多目的広場としての機能を果たしている結果ではないかと推察される。また、駐車場に対する評価も67.3%が十分であると答えており、キャンプ場の収容員からみてまず十分な広さと考えてよいと思われる。テント内のスペースについては評価の分かれるところであり、団体で利用した場合適性な人数で使用されているかどうか検討しなければならないと考える。

施設の清潔さに対する評価は、水道の水質に関して非常に高い評価を得ている(80.6%)ことが顕著である。対象

者にキャンプ経験者が多数含まれていることを考えれば、他のキャンプ場と比較しても当キャンプ場の水質が優れているとみてよいと思われる。しかし、トイレの清潔さでは「不十分である」と答えている者が多く(37.6%)考慮すべき問題点であろう。

表. 10 施設に対する評価

N=263

項 目	十分である		どちらとも いえない		不十分である		無回答	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. テント内のスペース	75	28.5	68	25.9	45	17.1	75	28.5
2. テントの内外の清潔さ	87	33.1	76	28.9	23	8.7	77	29.3
3. テントとテントの間隔	133	50.6	42	16.0	12	4.6	76	28.9
4. バンガローのスペース	125	47.5	62	23.6	31	11.8	45	17.1
5. バンガローの内外の清潔さ	106	40.3	79	30.0	28	10.6	50	19.0
6. バンガローとバンガローの間隔	158	60.1	40	15.2	14	5.3	51	19.4
7. 炊事場のスペース	116	44.1	82	31.2	63	24.0	2	0.8
7. 炊事場の清潔さ	138	52.5	94	35.7	30	11.4	1	0.4
9. 炊事場の使いやすさ	130	49.4	101	38.4	28	10.6	4	1.5
10. 水道の蛇口の数	145	55.1	59	22.4	58	22.1	1	0.4
11. 水道の水質の良さ	212	80.6	39	14.8	7	2.7	5	1.9
12. かまどの使いやすさ	141	53.6	78	29.7	30	11.4	14	5.3
13. かまどの数	155	58.9	58	22.1	32	12.2	18	6.8
14. ゴミ箱の数	104	39.5	74	28.1	73	27.8	12	4.6
15. ゴミ箱内のゴミ処理	110	41.8	87	33.1	50	19.0	16	6.1
16. トイレの清潔さ	74	28.1	88	33.5	99	37.6	2	0.8
17. トイレの数	111	42.2	57	21.7	95	36.1	0	0
18. トイレのスペース	152	57.8	65	24.7	41	15.6	5	1.9
19. キャンプファイヤー場の スペース	188	71.5	45	17.1	10	3.8	20	7.6
20. キャンプファイヤー場の 使いやすさ	157	59.7	73	27.8	9	3.4	24	9.1
21. キャンプファイヤー場の間隔	167	63.5	62	23.6	8	3.0	26	9.9
22. 駐車場のスペース	177	67.3	53	20.2	5	1.9	28	10.6
23. 駐車場の利用しやすさ	149	56.7	67	25.5	9	3.4	38	14.4
24. 管理棟のスペース	135	51.3	79	30.0	2	0.8	47	17.9
25. 管理棟からの情報提供	80	30.4	105	39.9	28	10.6	50	19.0
26. 管理棟の機能	108	41.1	101	38.4	8	3.0	46	17.5
27. 管理人の親切さ	177	67.3	51	19.4	6	2.3	29	11.0
28. 管理人のキャンプに関する知識	116	44.1	91	34.6	7	2.7	49	18.6
29. バンガロー・テントサイトから 炊事場までの距離	157	59.7	82	31.2	13	4.9	11	4.2
30. バンガロー・テントサイトから トイレまでの距離	145	55.1	80	30.4	31	11.8	7	2.7
31. バンガロー・テントサイトから キャンプファイヤー場までの距離	169	64.3	64	24.3	10	3.8	20	7.6
32. バンガロー・テントサイトから 駐車場までの距離	171	65.0	63	24.0	8	3.0	21	8.0
33. バンガロー・テントサイトから 管理棟までの距離	175	66.5	59	22.4	9	3.4	20	7.6
34. キャンプ場の自動販売機の数	88	33.5	72	27.4	90	34.2	13	4.9

自動販売機の数(駐車場に3台、バンガローサイトに1台)に対して「不十分」と答えている者が34.2%あったが、自然を生かそうとする林間キャンプ場の性格からみて、あまり人工物を増設するのは問題があるといえる。

次に、自然に関する評価では、樹木・草花・野草などの豊富さ、河川の水質などではある程度の評価を得たといえるが、河川の水量や水遊びに利用できるスペースについては「不十分である」という回答も多く、改善の余地があるものと思われる。

レクリエーション活動のできる場所については、野外料理やキャンプファイヤーなどの活動には十分応ずることができるようであるが、河川の流木・石・岩石などの数、魚つりの場所、登山・ハイキングコースの道しるべおよび歩きやすさなどの項目で、「どちらともいえない」という回答が多かった点を考慮し今後検討しなければならないであろう。

オリエンテーリングのコースは特に設けてないが、学校や団体によるキャンプのレクリエーションプログラムにはオリエンテーリングが含まれることが多いので、このような面での配慮も必要であろう。

管理体制についてはどうであろうか。当キャンプ場を開設するに当たっては、林業就労者の雇用機会をつくりだすという意味もあり、管理人は町が民間に委託している。その管理人に対する評価では、親切さで高い評価(67.3%)を得ている。楽しい雰囲気のカンパ場であるかどうかは、最初に接する管理人の対応に大きく左右されるといってよいだろうから、その点ではまずまずの評価といえる。しかし、親切さだけでは管理・運営者としての役割を十分に果たしたとはいえない。情報提供や管理棟の機能に対しては「どちらともいえない」という回答が多く、十分な評価を得ているとは言い難い。キャンプ場のイメージアップには、管理人の働きが大きなウェイトを占めるものと思われるので、より一層の積極的なサービスが望まれるところである。

35. キャンプ場としての樹木・ 草花・野草などの数	188	71.5	52	19.8	16	6.1	7	2.7
36. 野外レクリエーション活動に 利用できる樹木の数	143	54.4	81	30.8	22	8.4	17	6.5
37. 小鳥・小動物の数	114	43.3	92	35.0	36	13.7	21	8.0
38. 河川の水質	108	41.1	64	24.3	77	29.3	14	5.3
39. 河川の水質	151	57.4	68	25.9	23	8.7	21	8.0
40. 河川の水遊びに利用できる スペース	112	42.6	70	26.6	66	25.1	15	5.7
41. レク工業に利用できる河川の 流木・石・岩石などの数	100	38.0	102	38.8	29	11.0	32	12.2
42. 魚つりの場所	30	11.4	123	46.8	64	24.3	46	17.5
43. 登山・ハイキングコースの 道しるべ	88	33.5	102	38.8	29	11.0	44	16.7
44. 登山・ハイキングコースの 歩きやすさ	74	28.1	98	37.3	44	16.7	47	17.9
45. オリエンテーリングの場所	78	29.7	108	41.1	25	9.5	52	19.8

参 考 文 献

- 1) 前野淳一郎「全国キャンプ場の実態調査」, レクリエーション研究 第7号 (1980)
- 2) 日本観光協会編「観光レクリエーション施設の計画 No.1 (キャンプ場)」 (1973)
- 3) 日本観光協会編「観光情報ファイル No.1 (キャンプ場特集)」 (1978)
- 4) 兼松保一「野外活動」, ベースボールマガジン社 (1986)
- 5) 兼松保一「キャンプ」, 成美堂出版 (1985)
- 6) 山内昭道 他「キャンプ」, 不昧堂出版 (1984)
- 7) 余暇開発センター「レジャー白書 '86」

5. まとめ

町営尾白の森キャンプ場の利用者 263名を対象に、利用状況および施設に対する評価についてアンケート調査を実施した。主な結果は次の通りであった。

- 1) キャンプ場の利用形態は、学校や団体、組織での利用が多かった。
- 2) 利用者の住居は、東京都および神奈川県が多く、利用した交通機関は貸し切りバスやマイカーであった。
- 3) 宿泊期間は、学校キャンプは3泊が多く、その他のキャンプは2泊以内の短期キャンプが多かった。
- 4) キャンプで実施されたレクリエーション活動は、野外料理やキャンプファイヤーが多く、次いで水遊び、ゲーム、歌などの順であった。
- 5) 施設に対する評価では、水道の水質、キャンプファイヤー場や駐車場のスペース、樹木・草花・野草の数などで高い評価を得た。また、施設間の間隔や距離、使いやすさなどにも好意的評価を受けた。評価の低かった項目では、トイレの清潔さ、自動販売機の数、魚つりの場所などであった。
- 6) 管理体制に対する評価では、管理人の親切さで高い評価を得た。しかし、情報提供や管理棟の機能については十分な評価を得ることができなかった。

以上、過疎地の振興策と町の活性化をめざして開設されたキャンプ場に対して、管理・運営面での一助とすべき資料を得るために、キャンプ場の利用状況と施設の評価について調査を試みた。今後、調査の内容、方法などにも改善を加えつつ調査を継続したいと考える。